

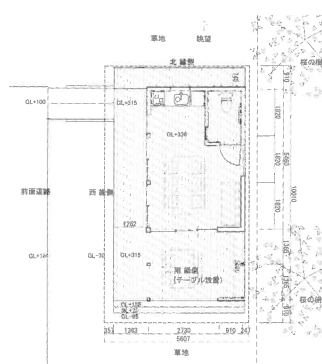
熊本みんなの家 (プッシュ型)

HOME-FOR-ALL for
Permanent Housing in
Kumamoto

平成28年熊本地震では、
災害救助費で集会所を整備していない
20戸未満の小規模な仮設団地を対象に、
「日本財団わがまち基金」を活用し
関係市町村と協議しながら
11棟の「みんなの家」を整備した。
一般財団法人熊本県建築住宅センターとの
協働により進められたこのプロジェクトは、
入居者の方と意見交換を行い、
様々な地域から集まった世帯が生活するうえで、
孤立しないよう、気軽に集い、
コミュニティが創造されることを願い建てられた。
「みんなの家」が地域づくりの拠点となり
復興が加速することを期待する。

くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ARTPOLIS

美里町くすのき平のみんなの家

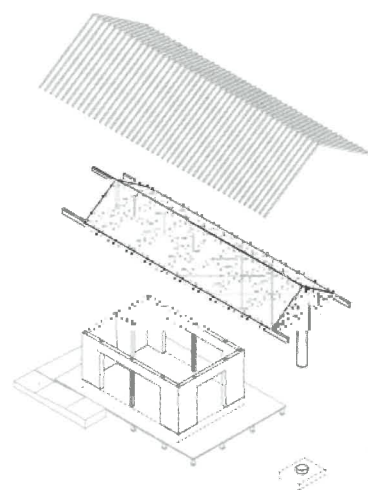


最初に敷地選定の視察に伺った際に、木造仮設団地ならではの掃き出し窓に設けられた縁側を利用して住民同士でお話をされていた光景が印象的だった。みんなの家は、敷地の居場所を建築が建つことで最大限に増幅させるものであってほしいと思っている。敷地は高台にあり、東西南北に特徴があった。北面は北斜面になっており眺望が抜群。西面は仮設団地に面しているのも顔となる。東面には桜の樹がある。南面には敷地に余裕がある。そこで西側に開いた大屋根を掛けて、その下に西西南北面に異なった奥行き縁側を設けた。お引き渡し後も家具のメンテナンスや使われ方のリサーチに伺っているが住民の方の縁側の利用率は高い。その要因は、敷地に対する建築のかたち、美里町役場や福祉団体のケアに加えて、みんなの家の建設段階から大阪から学生がセルフビルドで屋外家具を設置しに伺い、たこやきパーティを催しつつ、大工や住民の方と一緒に施工の最終仕上げをしたことも寄与していると考えている。

御船町玉虫のみんなの家



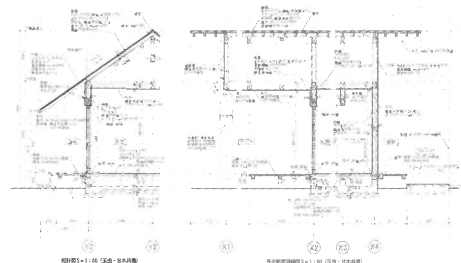
町営玉虫団地に隣接した公園内に設けられた仮設団地に建つみんなの家である。住民からの提案により、遠くに熊本市街地を望む公園の端が敷地として選ばれた。将来的には玉虫団地の人々が利用することを想定して、常設型として計画している。大きな軒下と四周をめぐる縁側を持ち、鍵が掛かっても気軽に立ち寄り、座って話ができることが最大の特徴である。最小限の室内空間を包む外壁は、深い藍色の掻き落とし左官仕上げとしている。切妻屋根というみんなの家に共通するデザインコードを用いながらも、勾配を強くして軒を低く抑え、それを一本足の棟持ち柱で支えることで、親しみやすい傘のような屋根を仮設団地にそっと差し掛けている。



御船町甘木のみんなの家



民有地に計画された常設型の仮設団地に建つみんなの家である。玉虫と同じく、大きな軒下と四周をめぐる広い縁側を持ち、鍵が掛かっても住民が気軽に立ち寄り、座って話ができる。外壁は、玉虫とは対照的に艶やかな朱色の土佐漆喰の磨き仕上げとしている。敷地に建っていた母屋の記憶を伝えるために、基礎石を再利用して擁壁をつくり、ポーチの幅いっぱい古瓦を木端建てで積み階段を設けた。階段が道路を挟んで向かい合うお寺の本堂の軸線を受け止め、ポーチを山門のように参道に差し掛けている。お寺に隣接する消防屯所とともに、みんなの家の傘のような屋根を中心にして、仮設団地の周辺が小さなシビックセンターを形づくっている。



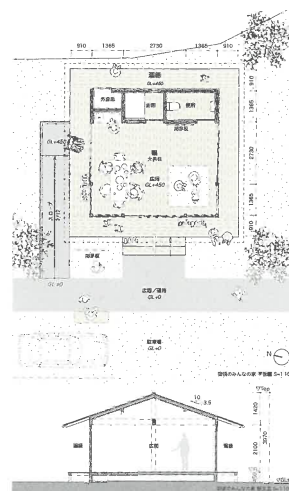
宇城市御領のみんなの家



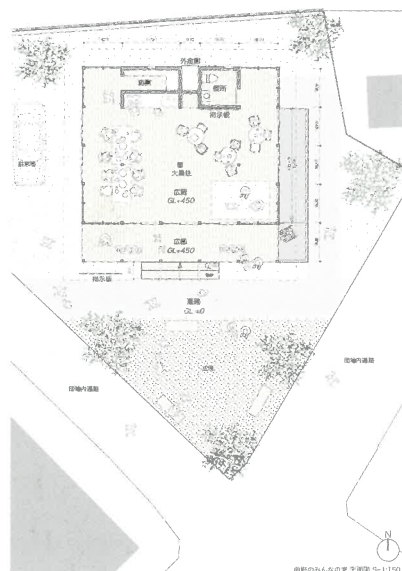
住宅地の端に位置する御領仮設団地では、高齢者が中心に10世帯が避難生活を送っている。仮設住宅は東西に平行に二列配置され、その間が駐車場として利用されていた。そこで、駐車場の東側にみんなの家を寄せて配置し、仮設住宅とコの字で囲まれた広場が形成されるように計画した。

みんなの家は、中央に大黒柱を設け、求心性のある正方形の平面構成とした。滯縁が四周を囲い、どの方向からでも建物にアクセスすることができる。立面は概ねガラスの建具で構成し、内部の活動が周囲に漏れ伝わることを意図した。

賑やかな笑い声が、仮設住宅に反響して住宅地に伝わる。光と音で人々を招くみんなの家になることを期待する。



宇城市曲野長谷川のみんなの家



市営住宅団地に隣接した高台に位置する曲野仮設団地では、様々な地域から集まった13世帯が避難生活を送っている。

みんなの家は仮設団地の敷地内ではなく、両団地の間に位置する三角形の公園を敷地にし、互いのコミュニティの輪が広がり、ここで重なることが期待された。

三角形の平面に正方形を配置すると、各辺に三角形が残る。それぞれを既存ポンプ小屋、広場、駐車スペースに割当て、それらを緩やかに分節するようにみんなの家を配置した。

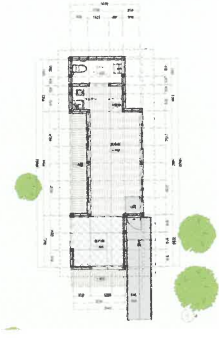
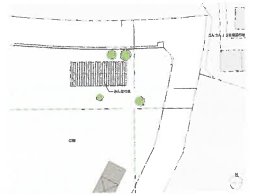
両団地から住民がここを目指して集うことをイメージし、中心に大黒柱を設け、求心性のある平面構成とした。南側の広場と連続的に利用できるように、奥行きが深く建物と同幅の広縁を設けた。

公園のように気軽に利用されるみんなの家になることを期待する。

熊本市さんさん2丁目のみんなの家



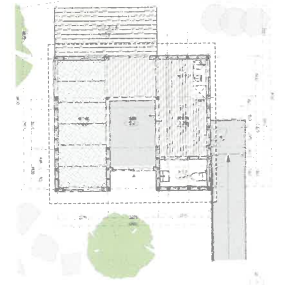
さんさん2丁目仮設団地は小規模団地であったことから、プッシュ型みんなの家の整備が整うまでの間、住民の方々が気軽に集う場所がない状況であった。ヒアリングを行うと、来客との談話スペースとして、子ども達の宿題をするスペースとして、お年寄りの憩いの場として活用する意見が上がり、公園の中に「共同のリビングルーム」をつくることをテーマとした。設置期間が、仮設住宅が撤去されるまでの約1年間であることが前提だったため、早急に完成させるよう努めた。プッシュ型みんなの家の第1号として完成式典を催した際には、小さなお子さんから高齢の方まで参加され、皆さんに愛されることが予見される場となった。



阿蘇市内牧のみんなの家



プッシュ型みんなの家として整備された内牧みんなの家は、今後仮設団地が撤去されたあとも、阿蘇市が管理する建物として永続的に残ることが決まっていたため、慎重に現地調査及びヒアリングを行った。両岸に桜が植わっているお堀が、団地に隣接することを敷地の特徴としていたため、建物をお堀側に配置し、川に向かってデッキを張り出すことがメインに決まった。また、模型を元に、プランが「正方形」の方が広く感じること、土足のまま気軽に腰掛けることができる土間があると良いこと、畳のスペースも欲しいこと等の意見が上がり、それらを総合的にまとめたプランとした。春のお花見など将来的にも地域の人々に有効活用されることを期待できる集会所となった。

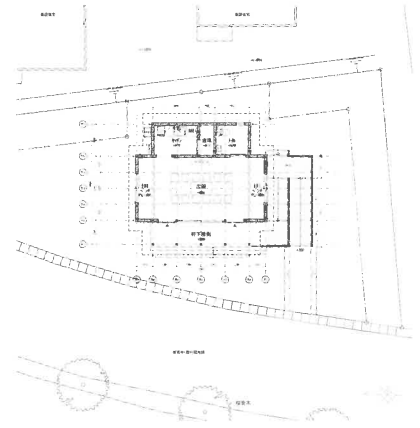


宇土市境目第2のみんなの家



敷地は、14戸の仮設住宅から少し低いレベルにあり、全面の道路沿いには美しい桜並木が広がっている。まず、その桜並木を季節の変化とともに楽しめるような建て方を考えた。建物の基本的な構成として切り妻の主屋の両平側に下屋が付属するかたちとした。道路側には桜の並木とつながるテラスを設けた。

テラスの大階段は花見の時の栈敷席にもなる。反対側の下屋には、キッチン・倉庫・トイレなどの必要機能を配することで、主屋に2間×4間の単純なワンルームを実現することが出来た。両妻壁に半間幅の畳ベンチを設け、みんなで集まり、様々な使い方が出来るような空間が実現した。オープニングでは多くの住民が集まり、これからの使い方に希望が膨らんだ。

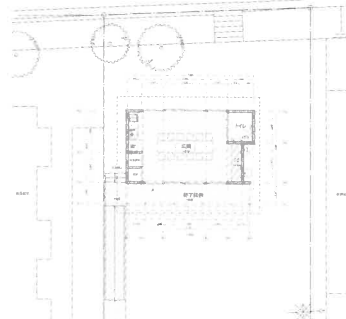


宇土市境目第3のみんなの家



敷地は、仮設住宅の住棟間に位置している。住戸のプライバシーに配慮し、南と北の住戸側には妻壁を設け視線を閉じ、東西に大きく開口を設けている。切り妻の大きな屋根を広場に葺き下ろし、応急仮設住宅の住棟間の広場に一体的なつながりをつくっている。広場に面して半外部のテラス、大きな階段を設け、内と外が一体的につながっている。東西に開く中央のワンルーム空間に面してキッチン、トイレ、収納を配している。

構造計画としては、第2仮設と同様に105角の材料を基本とした架構とし、ローコスト化を図っている。また、隣接する境目団地災害公営住宅の集会所のデザインにも基本システムを展開し、地域への面的な広がりを目指している。

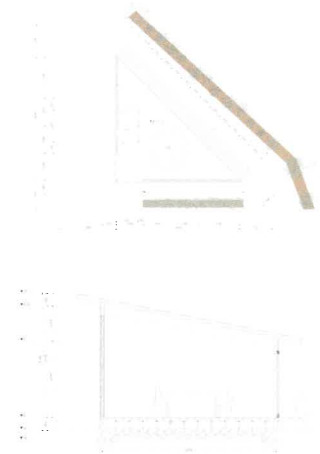


宇土市新松原のみんなの家



復興の手がかりとしての小さな三角形 「九州新幹線高架」+「JR鹿児島線」+「JR三角線」 「国道57号高架」に囲まれた変形遊休地に建つ三角形プラン。小規模仮設住宅団地が閉鎖された後は、地区の公民館として使用される予定である。三角形の最長辺を全開放+縁側とすることで、柔軟な使い方と、ネガティブだった住宅地環境の価値の向上を目指している。

計画過程でのワークショップで出た「緑が欲しい」という意見から、四季折々に花開く植栽を縁側の前に施した。復興には長期的なビジョンと日常的な営みの積み重ねが必要だが、この小さな三角形が、時間の経過とともに地域のつながりを取り戻すための場になるようにと願っている。

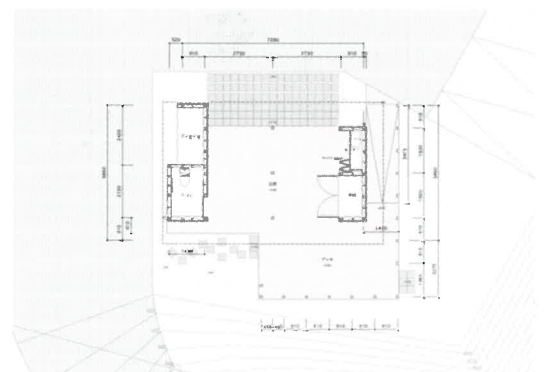


室第二のみんなの家



室第二団地は大津町内に島状につくられた南阿蘇村の人々のための仮設団地である。周辺コミュニティとのつながりが希薄な団地生活での日々のよろこびは、朝夕に団地前を登下校する地元小学生・高校生との挨拶だという。

「みんなの家」を団地内コミュニティに完結させるのではなく、この建物が子どもたちをはじめ室地区の人々との交流の結節点となるよう、門型切妻屋根の風通しのよい開かれたかたちとした。住民との設計WSではこうした提案に共感がえられ、開口部から建具を取り払い、東屋のような「みんなの家」となった。夏・冬には簾やビニールカーテンを設えていく。ものづくり活動を通して人々が集まる仕組みになればと期待している。



美里町くすのき平のみんなの家



●建築家プロフィール

前田茂樹

1974年大阪府生まれ/1998年大阪大学工学部建築工学科卒業/現在、GEO-GRAPHIC DESIGN LAB.代表

©Yuna Yagi

●建築データ

所在地 / 熊本県下益城郡美里町
設計者 / 前田茂樹
構造設計者 / 株式会社五瀬建築工房
施工者 / 株式会社五瀬建築工房
完成時期 / 2017年9月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
建築面積 / 35.31㎡
延床面積 / 19.87㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

御船町玉虫のみんなの家



●建築家プロフィール

横山俊祐

1954年福岡県生まれ/1985年東京大学工学部建築学専攻修士課程修了/現在、大阪市立大学大学院教授

●建築データ

所在地 / 熊本県上益城郡御船町
設計者 / 横山俊祐+宮本佳明
構造設計者 / 満田衛資構造計画研究所
施工者 / 有限会社ウエダホーム
完成時期 / 2017年8月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
敷地面積 / 361.30㎡
建築面積 / 49.09㎡
延床面積 / 39.75㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト(左官、塗装)、都倉達弥/左官都倉(左官)

●建築データ

所在地 / 熊本県上益城郡御船町
設計者 / 横山俊祐+宮本佳明
構造設計者 / 満田衛資構造計画研究所
施工者 / 有限会社ウエダホーム
完成時期 / 2017年8月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
敷地面積 / 228.93㎡
建築面積 / 49.09㎡
延床面積 / 39.75㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト(瓦階段、擁壁、左官、塗装)、都倉達弥/左官都倉(左官)

御船町甘木のみんなの家

●建築データ

所在地 / 熊本県上益城郡御船町
設計者 / 横山俊祐+宮本佳明
構造設計者 / 満田衛資構造計画研究所
施工者 / 有限会社ウエダホーム
完成時期 / 2017年8月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
敷地面積 / 228.93㎡
建築面積 / 49.09㎡
延床面積 / 39.75㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト(瓦階段、擁壁、左官、塗装)、都倉達弥/左官都倉(左官)

宇城市御領のみんなの家



●建築家プロフィール

鷹野敦

1979年兵庫県生まれ/2015年アールト大学(フィンランド)木質材料科学博士課程修了/現在、鹿児島大学大学院建築学専攻准教授

●建築データ

所在地 / 熊本県宇城市
設計者 / 鷹野敦+根本修平
構造設計者 / 横須賀洋平
施工者 / 黒田建築
完成時期 / 2017年9月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
敷地面積 / 324.72㎡
建築面積 / 34.57㎡
延床面積 / 29.81㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

根本修平

1975年東京都生まれ/2004年九州芸術工科大学大学院単位取得満期退学/現在、福山市立大学

●建築データ

所在地 / 熊本県宇城市
設計者 / 鷹野敦+根本修平
構造設計者 / 横須賀洋平
施工者 / 黒田建築
完成時期 / 2017年9月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
敷地面積 / 324.72㎡
建築面積 / 34.57㎡
延床面積 / 29.81㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

宇城市曲野長谷川のみんなの家

●建築データ

所在地 / 熊本県宇城市
設計者 / 鷹野敦+根本修平
構造設計者 / 横須賀洋平
施工者 / 黒田建築
完成時期 / 2017年9月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
敷地面積 / 373.77㎡
建築面積 / 81.68㎡
延床面積 / 66.25㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

熊本市さんさん2丁目のみんなの家



●建築家プロフィール

矢作昌生

1966年京都府生まれ/1996年南カリフォルニア建築大学大学院修了/現在、矢作昌生建築設計事務所、九州産業大学教授



井手健一郎

1978年福岡県生まれ/2000年福岡大学工学部建築学科卒業/現在、rhythmdesign Ltd.、リズムデザイン 代表取締役

●建築データ

所在地 / 熊本県熊本市
設計者 / 矢作昌生+井手健一郎
構造設計者 / 株式会社黒岩構造設計事務所
施工者 / 株式会社エバーフィールド
完成時期 / 2017年7月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
敷地面積 / 2316.97㎡
建築面積 / 57.26㎡
延床面積 / 29.812㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

阿蘇市内牧のみんなの家

●建築データ

所在地 / 熊本県阿蘇市
設計者 / 矢作昌生+井手健一郎
構造設計者 / 株式会社黒岩構造設計事務所
施工者 / 株式会社エバーフィールド
完成時期 / 2017年9月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
敷地面積 / 403.06㎡
建築面積 / 39.6㎡
延床面積 / 38.33㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

宇土市境目第2のみんなの家



●建築家プロフィール

内田文雄

1952年熊本県生まれ/1977年早稲田大学大学院修了/現在、山口大学大学院名誉教授、龍環境計画主宰



西山英夫

1959年熊本県生まれ/1982年熊本工業大学卒業/現在、西山英夫建築環境研究所代表

●建築データ

所在地 / 熊本県宇土市
設計者 / 内田文雄+西山英夫
構造設計者 / 山田憲明(アドバイス)
施工者 / 株式会社エバーフィールド
完成時期 / 2018年2月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
建築面積 / 43.89㎡
延床面積 / 36.44㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

宇土市境目第3のみんなの家

●建築データ

所在地 / 熊本県宇土市
設計者 / 内田文雄+西山英夫
構造設計者 / 山田憲明(アドバイス)
施工者 / 株式会社エバーフィールド
完成時期 / 2018年1月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
建築面積 / 46.25㎡
延床面積 / 34.53㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

宇土市新松原のみんなの家



●建築家プロフィール

田上健一

1966年熊本県生まれ/1992年マンチェスター大学大学院修了/現在、九州大学教授、田上一級建築士事務所主宰

●建築データ

所在地 / 熊本県宇土市
設計者 / 田上健一
構造設計者 / 黒岩裕樹/黒岩構造設計事務所
施工者 / 株式会社ロジック
完成時期 / 2018年4月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
建築面積 / 33.54㎡
延床面積 / 33.54㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト (WS協働・イベント企画・植樹)

室第二のみんなの家



●建築家プロフィール

四ヶ所高志

1980年福岡県生まれ/2010年東京工業大学理工学研究科建築学専攻修士後期過程単位取得満期退学/現在、福岡大学工学部建築学科助教



徳田光弘

1974年福岡県生まれ/2003年九州芸術工科大学大学院博士後期課程修了/現在、九州工業大学大学院准教授

●建築データ

所在地 / 熊本県大津町
設計者 / 四ヶ所高志+徳田光弘
施工者 / 朋和株式会社
完成時期 / 2018年3月
主要用途 / 集会所
事業主体 / (一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
建築面積 / 28.43㎡
延床面積 / 28.43㎡
階数・構造 / 地上1階・木造
協力者 / KASEIプロジェクト

美里町くすのき平のみんなの家



御船町玉虫のみんなの家



御船町甘木のみんなの家



宇城市御領のみんなの家



宇城市曲野長谷川のみんなの家



熊本市さんさん2丁目のみんなの家



阿蘇市内牧のみんなの家



宇土市境目第2のみんなの家



宇土市境目第3のみんなの家



宇土市新松原のみんなの家



室第二のみんなの家

